

# 電源立地地域温排水対策事業 (大間地点) (要 約)

小倉大二郎

温排水を有効利用したアワビ増殖の可能性について検討するための基礎資料を得ることを目的として、アワビ中間育成試験及び放流アワビ追跡調査を実施した。なお、詳細は、「平成8年度電源立地地域温排水対策事業調査報告書」(大間地点)(平成9年3月、青森県)として報告した。

## 1 アワビ中間育成試験

- (1) 青森県栽培漁業公社生産の平成7年産エゾアワビ稚貝30,000個を平成8年10月3日、大間漁業協同組合水産資源中間育成施設(陸上施設)に収容し平成8年12月4日まで中間育成試験を実施した。なお、本年度は中間育成施設取水口部分が破損し、その復旧に時間を要したことから十分な試験が出来なかった。
- (2) 中間育成期間中の水温は11.5℃~20.5℃の範囲にあったが、水温下降期にあったことから稚貝の成長は殆ど認められず、育成終了後時では平均殻長4.49±3.02mm、平均重量2.05±0.65gとなり、生残率は94.4%であった。
- (3) 中間育成を終了したエゾアワビ稚貝28,320個は、平成8年12月4日に潜水により大間町割石地先に全数放流した。

## 2 放流アワビ追跡調査

- (1) 平成7年までに大間町割石地先の禁漁区へ中間育成後放流したエゾアワビを回収するため、平成8年10月11日、11月20日、11月21日の3回、潜水により再捕した。
- (2) 総回収数量は1,736個、122.6kgであり殻長7cm以上が1,146個、100.4kg、7cm以下が590個、22.2kgであった。貝殻に生じる障害輪を判読したところ、回収されたエゾアワビは平成2年から6年の5ヶ年間に放流された8放流群(試験放流5群、組合放流3群)に分類された。
- (3) 平成8年度放流漁場の害敵生物は、イトマキヒトデが主で11地点から35個体が採取された。
- (4) 海藻は、ツルアラメ、ジョロモク、ヨレモク等が多く、アワビにとって餌料価値の低いものが大半を占めた。